

出題区分表、上級テキスト、論文式試験過去問の対応表

◎:第1問(最近は純理論問題)、★:第2問(最近は事例問題)

公認会計士・監査審査会の出題区分表		TAC上級テキスト(2024)					過去問																	
		過去出題された分野から以下の特に【論A】、【論B】を重点的に復習！					H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	
1.公認会計士監査の基礎																								
(1)公認会計士監査の意義																								
	①財務報告制度における公認会計士監査の位置付け	5頁、8～10頁、407頁、411頁、415・416頁、430頁											◎										◎	
	②コーポレート・ガバナンスに対する公認会計士監査の貢献	5頁、8～10頁、407頁、411頁、415・416頁、430頁											◎											
	③公認会計士監査の歴史	8・9頁、19頁、449・450頁																						
(2)公認会計士監査をめぐる基礎的理論 具体的には、期待ギャップ、監査の必要性、監査の固有の限界、合理的な保証、二重責任の原則、監査の機能（指導＆批判、保証＆情報提供、監査意見の枠組み（表明形式））																								
		18頁、26頁、28頁、31～35頁、394～397頁						★	◎・★		◎	◎				★		◎	◎		◎		◎	
(3)監査人としての要件と職業倫理																								
		38～46頁、444～448頁						★			◎		◎							◎				
2 監査基準																								
(1)監査基準の意義																								
	①監査基準生成の歴史的経緯	19頁、450頁および450頁に登場するそれぞれの頁																					◎	
	②監査基準の意義と役割	16・17頁、20～23頁																						
(2)監査の目的																								
	①一般目的の財務諸表の監査の目的	26～29頁、191頁、394・395頁											★										◎	
	②重要な虚偽の表示に対する監査上の対応	27頁、51頁、100頁、106～111頁、144～146頁、242頁																						
	③特別目的の財務諸表の監査の目的	394～400頁													◎									
(3)一般基準																								
	①専門的能力の向上と知識の蓄積	39頁												◎										
	②公正不偏の態度と独立性の保持	40・41頁、432～435頁、447頁							★				◎							◎				
	③正当な注意と職業的懐疑心	42・43頁、254頁						★			◎		★											
	④不正等に起因する虚偽の表示への対応	240～252頁																						
	⑤監査調書の意義と役割	154～157頁																						
	⑥監査業務全般に係る監査事務所としての品質管理	286・287頁						◎・★																
	⑦個々の監査業務に係る品質管理	286・287頁						◎・★																
	⑧守秘義務	44・45頁、283頁、448頁																				◎		
(4)実施基準																								
	①基本原則(リスク・アプローチ、監査上の重要性)	50～52頁、100頁～111頁、142～144頁							◎		★	★				★	◎		◎・★				◎	
	②監査計画の策定及び修正	148～150頁							◎		★					★		★	★					
	③監査の実施																							
	(ア)監査要点	54～57頁												★		★	★	★	★					
	(イ)具体的な監査手続の種類	59・60頁、66～76頁、123頁												◎・★	★		★	★	★				★	
	(ウ)十分かつ適切な監査証拠と証明力	61～65頁														◎	◎		◎					
	(エ)内部統制と財務諸表監査との関係	78～88頁											★						◎					
	(オ)試査とサンプリング	89～97頁																	◎				◎	
	(カ)リスク評価の手法、リスク評価の修正と監査計画の見直し	114～122頁、127頁、150頁						★	◎	★		★		★					★	★	◎	◎	★	
	(キ)監査チーム内の討議	116・117頁																	★					
	(ク)評価したリスクへの対応	123頁、124～130頁						★		★		★					★	★	★	★	◎		★	
	(ケ)不正等に起因する虚偽表示への対応	240～255頁											★					★	★	★				
	(コ)特別な検討を必要とするリスクと当該リスクへの対応	131～133頁							◎	★									★				★	
	(サ)会計上の見積りの監査	134～140頁						◎						◎		★			★	★	◎		★	
	(シ)関連当事者の監査	141頁																						
	(ス)ITへの対応	152・153頁																						
	(セ)法令の遵守状況の検討、法令違反等事実発見時の対応	256～259頁、412頁																						
	(ソ)継続企業の前提に関する検討	262～268頁																						
	(タ)監査上の主要な検討事項の検討及び決定	279・280頁					—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎			◎		
	(チ)その他の記載内容の通読及び検討	325～327頁																						
	(ツ)監査手続の結果、識別した虚偽表示の集計・評価	144～146頁														★		★				★		
	(テ)経営者確認書	176～181頁							★															
	(ト)監査の最終段階及び審査	182頁、308～311頁																					★	
	④他の監査人等の利用(グループ監査を含む。)	160頁																						
	・他の監査人（構成単位の監査人）等の利用・グループ監査	(差替後)161頁～167頁																			★			
	・専門家の業務の利用	170・171頁																				★	★	
	・内部監査人の作業の利用	172・173頁																						
(5)報告基準																								
	①基本原則(監査報告書の意義、報告基準を設ける必要性)	188～194頁						◎							◎	◎								
	②監査報告書の記載区分	196～200頁、236頁													◎	◎	★				◎			
	③無限定適正意見の記載事項	201～208頁								★					◎	◎								
	④意見に関する除外	145・146頁、210～215頁、222～225頁、226頁								★				★									★	
	⑤監査範囲の制約	210～215頁、216～221頁、226頁							★	★					◎	◎	★							
	⑥継続企業の前提に関する報告	269～274頁								◎	★							◎						
	⑦監査上の主要な検討事項の報告	281～284頁					—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			◎		
	⑧その他の記載内容に関する報告	328・329頁					—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
	⑨追記情報	228～235頁								◎													★	
	⑩特別目的の財務諸表に対する監査の場合の追記情報	398～400頁																	◎					
(6)その他																								
	①経営者への質問、経営者とのディスカッション(討議)	116・117頁、151頁								★													◎	
	②監査役等とのコミュニケーション	151頁、276～278頁、416頁								★								◎	★	★				
	③比較情報への対応	321～324頁																						
	④後発事象への対応	318～320頁、428頁								◎													★	
3 監査における不正リスク対応基準																								
	(1)不正リスク対応基準の意義	253・254頁																					◎	
	(2)職業的懐疑心の強調	545頁																						
	(3)不正リスクに対応した監査の実施	246・247頁、254・255頁																						
	(4)不正リスクに対応した監査事務所の品質管理	255頁																					★	
4(2).四半期レビュー基準 ⇒今後「期中レビュー」に																								
	①四半期レビューの意義	334・335頁、353頁								★														
	②実施基準	336～341頁、353頁									★													
	③報告基準	342～353頁								★						◎							★	
5.財務報告に係る内部統制監査の基準																								
	(1)内部統制監査の意義	358・359頁、361頁、365～369頁、385・386頁																						
	(2)内部統制の基本的枠組み	78～81頁											★						◎					
	(3)内部統制監査と財務諸表監査との関係	360頁											★											
	(4)内部統制監査の実施	370～372頁											★											
	(5)内部統制監査の報告	373～384頁											★											
6.監査に関する品質管理基準																								
	(1)品質管理の意義	286～288頁																						
	(2)品質管理システムの整備及び運用	289頁、291頁、306・307頁																						
	(3)品質管理システムの構成	290頁																						
	①監査事務所のリスク評価プロセス	292頁																						
	②ガバナンス及びリーダーシップ	293頁																						
	③職業倫理及び独立性	294・295頁																						
	④監査契約の新規の締結と更新	296・297頁																						
	⑤監査の実施	298・299頁																		◎			★	
	⑥監査事務所の業務運営に関する資源	300・301頁																						
	⑦情報と伝達	302・303頁																						
	⑧品質管理システムのモニタリング及び改善プロセス	303・304頁、306頁																						
	⑨監査事務所間の引継ぎ(＝監査人の交代)	313頁・314頁																						
	(4)共同監査	312頁																						